

## 学 会 記 事

### 特定非営利活動法人日本火山学会 平成 25 年度定例総会議事録

1. 日 時：平成 25 年 5 月 21 日（火）  
13 時 00 分から 13 時 40 分
2. 場 所：千葉市・幕張メッセ国際会議場 201A 室
3. 出席者：維持会員 38 名，有効委任状数 105 通  
合計 143 名
4. 議案：
  1. 平成 24 年度事業報告の件
  2. 平成 25 年度事業計画の件
  3. 委員会設置の件
  4. 各賞受賞候補者承認の件
  5. 平成 24 年度財務報告の件
  6. 平成 25 年度財務計画の件
  7. 議事録署名人承認の件
  8. その他
5. 議事の経過の概要および議決の結果  
出席者（委任状を含む）が 143 名で，定足数 91 名を超えていることを確認し，議長が平成 25 年度日本火山学会定例総会の開会を宣言した。なお，会長欠席のため，定款第 15 条の 2 に従い副会長が議長を代行した。
  - (1) 第一号議案 平成 24 年度事業報告の件  
平成 24 年度の事業について各担当理事からの報告（資料 1）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した。
  - (2) 第二号議案 平成 25 年度事業計画の件  
平成 25 年度の事業計画案について各担当理事からの説明（資料 1）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを承認した。
  - (3) 第三号議案 委員会設置の件  
ジオパーク支援委員会の設置について理事会からの報告（資料 2）があり，全員異議なくこれを了承した。
  - (4) 第四号議案 各賞受賞候補者承認の件  
平成 24 年度日本火山学会各賞受賞候補者について，担当理事からの報告（資料 3）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを承認した。
  - (5) 第五号議案 平成 24 年度財務報告の件  
平成 24 年度の決算報告と会計監査（資料 4）が担当理事より報告され，これらについて議長が諮り，全員異議なくこれを了承した。また，会計監事からの監査報告についても，全員異議なく了承した。

- (6) 第六号議案 平成 25 年度財務計画の件  
平成 25 年度の予算案について担当理事からの説明（資料 5）に基づき議長が諮り，全員異議なくこれを了承した。
- (7) 第七号議案 議事録署名人承認の件  
議長より本日の議事をまとめるに当たり，議事録署名人 2 名を選出することを諮り，武尾 実氏および平林順一氏を選出することを全員異議なく承認した。
- (8) 第八号議案 その他  
連合大会中のセッション運営の問題点について火山会員より意見があり，担当委員会での対応を検討することを全員了承した。

以上，この議事録が正確であることを証します。

平成 25 年 5 月 21 日

議 長 井口正人 印  
議事録署名人 武尾 実 印  
議事録署名人 平林順一 印

#### （資料 1）各委員会報告

（平成 24 年度事業報告・平成 25 年度事業計画）

- (1) 庶務委員会（大湊理事）
  1. 入退会希望・会員数について

	維持	学術	一般	団体	名誉	計
2012 年秋季大会後	276	717	43	15	8	1,059
入会承認予定	+2	+23	0	0	0	+25
逝去	-1	-1	-1	0	-1	-4
退会	-7	-18	-3	0	0	-28
区分変更	+2	-2	0	0	0	0
学生継続未申請	0	-36	0	0	0	-36
2013 年定例総会後	272	683	39	15	7	1,016
（学生継続の場合）	272	719	39	15	7	1,052
除名対象者	3	14	0	0	0	17

除名対象者には 6 月末に通知を行い，8 月末までに会費未納の場合，秋季大会において除名の承認を行う旨の説明があった。

2. 主催・共催・協賛・後援について
  - 協賛 4 件
    - ・国際地学オリンピック（主催：特定非営利活動法人 地学オリンピック日本委員会）
    - ・第 38 回リモートセンシングシンポジウム（主催：社団法人 計測自動制御学会）
    - ・海洋調査技術学会第 24 回研究成果発表会（主

- 催：海洋調査技術学会)
- ・日本地熱学会平成24年度学術講演会(主催：日本地熱学会)  
共催 1件
  - ・2012年度大会 テーマセッション(主催：日本第四紀学会)  
後援 3件
  - ・第5回ジオパーク国際ユネスコ会議(主催：島原半島ジオパーク推進連絡協議会・世界ジオパークネットワーク)
  - ・第7回火山と環境シンポジウム(主催：財団法人 阿蘇火山博物館久木文化財団)
  - ・第3回震災予防講演会(主催：日本地震工学会)
3. 転載・使用許可について  
2件の申請を受け付けた。
4. 人事公募について  
15件の人事公募について「火山」に掲載を行った。
- (2) 編集委員会(寅丸理事, 代読大湊理事)
1. 「火山」発刊状況について  
【57-4号】 2012年12月28日発行  
【58-1号】 2013年3月29日発行
  2. 「火山」発行予定・掲載予定原稿について  
【58-2号】 6月末発行予定  
ゲスト・エディター：中川光弘, 津久井雅志, 長谷川健, 伴 雅雄, 星住英夫, 山元孝広  
通常論文：5件  
解説・紹介：1件 (IAVCEI 巡検案内書 (CD 添付))  
【58-3号】 9月末発行予定  
通常論文：2件
  3. 査読編集状況について  
現在査読編集集中の原稿：計8編 (論説6編, 寄書2編)
- (3) 事業委員会(星住理事, 代読大湊理事)
1. 地震火山子どもサマースクールについて
    - ・昨年度開催した第13回地震火山子どもサマースクール(2012年8月18日, 19日に糸井川において開催)に日本火山学会から20万円の助成を行った。
    - ・今年度は8月3日(土), 4日(日)に伊豆半島ジオパークにおいて第14回地震火山子どもサマースクール「南から来た証拠を探せ(仮)」を開催予定。  
主催は公益社団法人日本地震学会, 特定非営利活動法人日本火山学会, 日本地質学会, 伊豆半島ジオパーク協議会。
    - 日本火山学会は20万円の助成を行う。子どもゆめ基金助成金83.8万円が内定。  
子供サマースクール・ホームページや火山学会で参加者募集を告知する予定(対象：小学5年生～高校生)。
  2. 普及用品について
    - ・IAVCEI2013大会において, IAVCEI2013 シャツおよび缶バッジを販売予定。
    - ・2013年秋季大会において, 火山学会ロゴTシャツを販売予定。
  3. 火山学会ホームページについて
    - ・現在, 担当する委員会がないため, 事業委員会で分担する。コンテンツの整理見直しなどを実施予定。
    - ・IAVCEI2013ホームページを会議終了後に, 火山学会ホームページに移設
- (4) 大会委員会(松島理事, 代読大湊理事)
1. 2013年度秋季大会について
    - ・磐梯山ジオパークとの共催
    - ・会場：福島県猪苗代町 町立体験交流館「学びいな」
    - ・日程：9月29日(日) 午前 一般講演  
午後 一般講演  
9月30日(月) 午前 一般講演  
午後 一般・特別講演  
夜 懇親会  
10月1日(火) 午前 一般講演
    - ・火山防災シンポジウム：9月28日(土) 午後
    - ・現地討論会：
      - Aコース：9月27～28日  
(男体・那須火山)
      - Bコース：10月1日午後から2日  
(磐梯・吾妻火山)
    - ・子ども向け公開講座：9月28日  
(科研費・研究成果公開促進費に採択)  
長崎県島原市でも12月14日に子ども向け火山公開講座を開催予定。
    - ・大会案内は6月上旬に行い, 講演申込は7月上旬から8月上旬を予定。
  2. 2014年度秋季大会について
    - ・会場：福岡市 福岡大学キャンパス
    - ・日程：2014年11月2日(日)から4日(火)
    - ・現地討論会(予定)：雲仙岳, 九重・別府
  3. 2015年度秋季大会について  
開催地募集中
- (5) 国際委員会(藤田理事, 代読大湊理事)

1. 日本学術会議 IAVCEI 小委員会について
    - ・日本学術会議 IAVCEI 小委員に参加し、IUGG 分科会報告を受けた
  2. 地球惑星科学連合国際委員会について
  3. 研究国際奨励賞 1 件を採択し、中道治久氏を AGU Fall meeting 2012 に派遣した
  - (6) 他学会委員会（金子理事，代読大湊理事）
    1. EPS 誌について
      - ・日本火山学会は出版協力金として 2012 年度 20 万円の支払いを行った。
      - ・EPS 運営委員会が、科研費「国際情報発信強化 (A)」のカテゴリーに応募し、要求額（約 2 千万円×5 年）のほぼ満額が認められ採択された。
      - ・2014 年 1 月のオープンアクセスジャーナル化にむけて準備中
        - 7 月中旬に新出版社の原稿受付システムに移行
        - レターを重視し、掲載料で運営（会員 150 ユーロ，非会員 750 ユーロ）
    2. JpGU 誌について
      - ・新 JpGU 誌の誌名は「Progress in Earth and Planetary Science」に決定。
      - ・火山学会からの編集・運営委員は中田節也氏。
      - ・科研費「オープンアクセス刊行支援」のカテゴリーでほぼ満額で採択された。
      - ・2014 年 1 月のオープンアクセスジャーナル化にむけて準備中
        - 8 月 1 日より論文募集開始
        - レビュー中心
  - (7) IAVCEI2013 委員会（井口理事，代読大湊理事）
    1. 登録状況について
      - ・5 月 2 日時点で、登録数合計 803 名（一般：約 400，早期学生：約 400），投稿済 350 名
      - ・総登録者数は 1,100~1,300 名を想定
    2. 学術講演について
      - ・講演総数は 1,291（口頭 677，ポスター 614），基調講演 2
      - ・講演会場を 7 会場に増やして対応し，4 シンポジウムで計 35 セッションを開催
    3. 募金状況について
      - ・4 月末時点での寄付金総額は 974 万円（うち火山学会会員からは 63 名，250 万円）
      - ・現時点での寄付金確定金額は約 1,264 万円であり，展示ブース出展料 235 万円とあわせ，合計で約 1,500 万円の収入見込
    4. トラベルグラントについて
      - ・途上国および若手研究者に 3 つのカテゴリーに分けて支出を行う。募金のほぼ全額が，このトラベルグラントに充てられる予定。
- A. 登録料免除：52 名
  - B. 滞在費への補助（最大 10 万円）：51 名
  - C. 渡航費を含む補助（最大 25 万円）：30 万円
- (8) 将来問題検討委員会（宇都理事，代読大湊理事）
    1. 火山学会 60 周年記念事業について
      - ・趣旨：火山学会の 60 周年（2016 年）に向け，我が国の火山学の将来のあるべき姿を提案し，その実現を目指して，火山学の現状を把握し，今後推進すべき課題と方策の検討を行う。
      - ・実施内容：火山学の現状と展望に関するレビューを実施し，課題・方策を抽出する。そのためのシンポジウムを実施し，結果を報告書として取りまとめる。
      - ・実施体制：臨時委員会「火山学会 60 周年記念事業委員会」を設置。委員長は，篠原宏志前副会長。7-8 名程度のコアグループ（総括班）のもとに，課題別 WG を設置する。コアグループ員は学会を担う次世代の 30 後半 - 40 前半を中心に人選。
      - ・実施計画：
        - 2013 年度：検討課題の抽出・企画案の作成
        - 2014 年度：「火山学の現状と展望」の検討，シンポジウム企画実施
        - 2015 年度：「火山学の課題と方策」の検討，シンポジウム
        - 2016 年度：「火山」60 周年特集号出版
- (資料 2) 委員会設置報告
- ジオパーク支援委員会の設置が理事会で決定した。
- ・種類：常設委員会
  - ・目的と任務：火山学の普及・啓発のために，火山地域におけるジオパーク活動を火山学的立場から支援し推進することを目的とする。
  - ジオパークおよびこれからジオパークを目指す地域に対して，火山学のアウトリーチおよび火山防災に関する専門家派遣など，ジオパーク活動に関する情報交換を主要な任務とする。
  - ・委員：井村隆介，大野希一，鈴木雄介，中田節也\*，林信太郎，廣瀬 亘，萬年一剛，和田恵二（\* 委員長）
- (資料 3) 各賞選考委員会・候補者選考結果
1. 日本火山学会賞（該当なし）

2. 日本火山学会研究奨励賞（1件）  
 ・小園誠史（防災科学技術研究所）  
 「火道流モデルの構築による噴火機構に関する研究」  
 ・及川輝樹・筒井正明・大學康宏・伊藤順一、  
 文献史料に基づく江戸期における霧島火山新燃岳の  
 噴火活動，火山，57，199-218，2012.
3. 日本火山学会論文賞（1件）

## (資料4) 平成24年度財務報告

## (1) 平成24年度決算報告

収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日

特定非営利活動に係る事業会計

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減
<b>【経常収入の部】</b>			
会費収入	8,391,000	8,664,000	-273,000
事業収入	3,391,000	3,898,665	-507,665
補助金等収入	1,000,000	1,000,000	0
その他収入	250,000	275,292	-25,292
受取利息	10,000	1,844	8,156
雑収入	240,000	273,448	-33,448
経常収入合計	13,032,000	13,837,957	-805,957
<b>【経常支出の部】</b>			
事業費	11,963,000	8,991,073	2,971,927
火山学に関する定期大会等の開催費	2,423,000	1,436,468	986,532
会誌機関紙研究報告書等発行費	6,590,000	5,001,538	1,588,462
公開講座講演会等開催費	1,050,000	1,000,367	49,633
火山学等の普及啓発に関する事業費	270,000	131,100	138,900
火山学等に関する研究奨励表彰費	430,000	221,600	208,400
助成金支出	1,200,000	1,200,000	0
管理費	7,412,000	6,023,151	1,388,849
経常支出合計	19,375,000	15,014,224	4,360,776
経常収支差額	-6,343,000	-1,176,267	-5,166,733
<b>【その他資金収入の部】</b>			
その他資金収入合計	0	0	0
<b>【その他資金支出の部】</b>			
特定預金支出	150,000	150,000	0
退職給与引当預金支出	150,000	150,000	0
予備費	500,000	-	500,000
その他資金支出合計	650,000	150,000	500,000
当期収支差額	-6,993,000	-1,326,267	-5,666,733
前期繰越収支差額	16,043,182	16,043,182	0
次期繰越収支差額	9,050,182	14,716,915	-5,666,733

## 財産目録

平成 25 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動に係る事業会計

(単位：円)

科目	金額	
<b>【資産の部】</b>		
流動資産		
現金預金	17,276,912	
未収会費	711,000	
棚卸資産	2,680,481	
未収金	1,933,424	
流動資産合計		22,601,817
固定資産		
基本財産		
土地	10,749,528	
建物	4,223,874	
基本財産合計	14,973,402	
その他の固定資産		
その他の固定資産合計	6,646,810	
固定資産合計		21,620,212
資産合計		44,222,029
<b>【負債の部】</b>		
流動負債		
前受会費	5,177,000	
預り金	27,421	
流動負債合計		5,204,421
負債合計		5,204,421
正味財産		39,017,608

## (2) 平成 24 年度会計監査報告

平成 25 年 4 月 26 日

特定非営利活動法人日本火山学会定款第 6 章第 49 条により、平成 24 年度の事業・会計収支状況、預金・為替等の帳簿を監査した結果、適正に執行されていることを認めます。

特定非営利活動法人日本火山学会 会計監事

渡辺秀文 印

富樫茂子 印

## (資料5) 平成25年度財務計画

## (1) 平成25年度財務計画

収支予算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日

特定非営利活動に係る事業会計

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	前年度決算額	増減
<b>【経常収入の部】</b>				
会費収入	8,395,000	8,391,000	8,664,000	4,000
事業収入	3,840,000	3,391,000	3,898,665	449,000
補助金等収入	1,200,000	1,000,000	1,000,000	200,000
その他収入	250,000	250,000	275,292	0
経常収入合計	13,685,000	13,032,000	13,837,957	653,000
<b>【経常支出の部】</b>				
事業費	12,472,000	11,963,000	8,991,073	509,000
火山学に関する定期大会等の開催費	2,713,000	2,423,000	1,436,468	290,000
会誌機関紙研究報告書等発行費	5,890,000	6,590,000	5,001,538	-700,000
公開講座講演会等開催費	1,250,000	1,050,000	1,000,367	200,000
火山学等の普及啓発に関する事業費	1,579,000	270,000	131,100	1,309,000
火山学等に関する研究奨励表彰費	440,000	430,000	221,600	10,000
助成金支出	600,000	1,200,000	1,200,000	-600,000
管理費	7,582,000	7,412,000	6,023,151	170,000
経常支出合計	20,054,000	19,375,000	15,014,224	679,000
経常収支差額	-6,369,000	-6,343,000	-1,176,267	-26,000
<b>【その他資金収入の部】</b>				
その他資金収入合計	0	0	0	0
<b>【その他資金支出の部】</b>				
特定預金支出	150,000	150,000	150,000	0
退職給与引当預金支出	150,000	150,000	150,000	0
予備費	500,000	500,000	0	0
その他資金支出合計	650,000	650,000	150,000	0
当期収支差額	-7,019,000	-6,993,000	-1,326,267	-26,000
前期繰越収支差額	14,716,915	16,043,182	16,043,182	-1,326,267
次期繰越収支差額	7,697,915	9,050,182	14,716,915	-1,352,267

## ○ 2013年度日本火山学会各賞紹介

日本火山学会研究奨励賞

第20号

小園誠史(防災科学技術研究所 任期付研究員)

選考理由:

受賞対象となる研究課題: 火道流モデルの構築による噴火機構に関する研究

火山噴火において、その様式が爆発的になるか、非爆発的噴火になるかを予測することは、噴火推移予測の観点から最重要課題であり、火山学上最重要テーマの一つである。氏はこの重要課題について理論的研究を行い、一連の論文を含む著しい成果を挙げた。

はじめに、気液二相流の運動方程式、マグマの発泡、マグマ中の結晶の割合とその成長率に関する方程式を組

み合わせ、脱ガスを伴う火道流モデルを構築した。火道流の巨視的なダイナミクスは、マグマ溜まりの圧力(Pch)とマグマ噴出率(q)の関係によって特徴づけられる。そのなかで特に、Pch-qの関係がS字特性曲線を持つ場合、負性勾配の領域で定常的な流れが不安定となり、非爆発的噴火から爆発的噴火への急激な遷移が起こる。氏は、このような火道流の遷移に伴う噴火様式の変化を数値的に解析し、Pch-q曲線の性質と噴火条件やマグマの性質の関係を体系的に分類するとともに、爆発的噴火への遷移条件と観測される現象について解明した。

本研究による知見は、岩石組織、火山ガス・メルト包有物、ミュオン、地殻変動などの観測データからの噴火遷移過程を把握する可能性を提案するものであり、これまで火山学的に理解されていなかった火道流のメカニズ



ムと噴火様式の解明，さらには，火山噴火予知・火山活動の推移予測のための大きな手がかりとなる理論体系を構築したものとして高く評価される。また，氏は自らの理論を実証する新たな野外観測の研究も進めており，新分野への発展も期待される。よって，以上の成果により，日本火山学会研究奨励賞として相応しいと判断する。

(略歴)

1979年6月6日生まれ

2002年3月 九州大学 学士 (理学)

2004年3月 東京大学 修士 (理学)

2007年3月 東京大学 博士 (理学)

2004年4月-2007年3月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2007年4月-2008年3月 東京大学地震研究所学術研究支援員

2008年4月-2009年3月 東京大学地震研究所特任研究員

2009年4月-2011年2月 防災科学技術研究所契約研究員 (研究員型)

2011年3月-現在 防災科学技術研究所任期付研究員

(主な業績)

Kozono, T. and Koyaguchi, T. (2012) Effects of gas escape and Crystallization on the complexity of conduit flow-dynamics during lava dome eruptions. *J. Geophys. Res.*, **117**, B08204.

Kozono, T. and Koyaguchi, T. (2010) A simple formula for calculating Porosity of magma in volcanic conduits-during dome-forming eruptions. *Earth, Planets and Space*, **62**, 483-488.

Kozono, T. and Koyaguchi, T. (2009) Effects of relative-motion between gas and liquid on 1-dimensional steady-flow in silicic volcanic conduits : 1. An analytical method. *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, **180**, 21-36.

Kozono, T. and Koyaguchi, T. (2009) Effects of relative-motion between gas and liquid on 1-dimensional steady-flow in silicic volcanic conduits: 2. Origin of diversity of eruption styles. *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, **180**, 37-49.

Kozono, T., Ueda, H., Ozawa, T., Koyaguchi, T., Fujita, E., Tomiya, A. and Suzuki, Y. J. (2013) Magma discharge-variations during the 2011 eruptions of Shinmoe-dake-volcano, Japan, revealed by geodetic and satellite-observations. *Bull. Volcanol.*, **75**, 695.

日本火山学会論文賞

第15号

及川輝樹・筒井正明・大學康宏・伊藤順一

「文献史料に基づく江戸期における霧島火山新燃岳の噴



左から及川輝樹さん，井口副会長，小園誠史さん (幕張メッセ国際会議場で5月21日撮影)

火活動]

火山, 57, 199-218, 2012

選考理由:

高精度の噴火シナリオの作成は火山防災上重要であり，噴火予知計画でも盛り込まれている課題である。本論文は霧島火山新燃岳の享保噴火について，これまで知られていなかった噴火記録を再検討し，噴出物との対比も行い，噴火経緯を詳細に解析したものである。過去の噴火復元は従来，堆積物調査に基づくことが多いが，歴史噴火においては，噴火記録の資料も重要であることを改めて明確にしている。本論文は，噴火推移ツリーの作成にも言及しており，活動中の霧島の噴火推移予測 (シナリオ) や分岐点の判断に重要な情報を提供する点で火山学に大きな貢献が期待されるうえ，防災上の観点からも寄与するところが大きい。新燃岳の噴火もまだ予断を許さない状況で，このような論文をタイムリーに出版したことは非常に重要と考える。よって，以上の成果により，日本火山学会論文賞として相応しいと判断する。

○第22期日本学術会議 地球惑星科学委員会第2回 IUGG 分科会 議事録 (案)

日 時 平成25年2月12日 (火) 15:00-16:35

会 場 日本学術会議5階5-C (1)

出席者: 大久保修平 (委員長), 佐竹健治, 中田節也 (幹事, 議事録担当), 中村 尚 (幹事), 日置幸介\*  
オブザーバー: 田中 聡, 谷口真人\*, 西村浩一\*, 日比谷紀之, 山崎俊嗣  
(\* ビデオ会議参加者)

日本学術会議事務局: 山田裕香

資料1 第22期日本学術会議地球惑星科学委員会

- 第1回 IUGG 分科会議事録
- 資料2 第22期日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会名簿(案)
- 資料3 経過報告(2012.1~2013.1)
- 資料4 国際対応分科会における特任連携会員の選任ガイドラインについて
- 資料5 小委員会委員名簿
- 資料6 サウジアラビアの IUGG 加盟について
- 資料7 IUGG Yearbook 2013 (JAPAN)
- 資料8 IUGG Bureau Meeting (29 September-2 October 2012) 議事録
- 資料9 平成25年度代表派遣会議推薦書
- 資料10 国際対応分科会アンケート対応
- 資料11-1 SEDI2014 について
- 資料11-2 国際レーザ測距ワークショップ開催計画
- 資料12 小委員会報告
- 資料13 同追加資料

1. 前回議事録について承認した。
2. オブザーバーについて

IACS 小委員会の委員長が大畑氏から西村氏に変更になったので、オブザーバーとして西村氏を承認した。SEDI コミッションの主査の田中氏をオブザーバーに追加することにした。ISPSO 小委員会の委員長である花輪氏の代わりに日比谷氏のオブザーバー出席を認めた。

### 3. 報告事項

#### (1) 特任連携会員と小委員会について

今期から特任連携会員選任のガイドラインが厳しく定められたため、本分科会からは特任連携会員の提案ができなかった。そのため、大久保委員長が、会員・連携会員の不在であった IACS, IAGA, IAHS 小委員会のメンバーに加わることにした。

次期の会員・連携会員の推薦が今秋に予定されているので、会員・連携会員の不在であった委員会からは、候補者を積極的に推薦依頼するようにとのアドバイスが大久保委員長からあった。

#### (2) IUGG の加盟申請について

IUGG 加盟を希望しているサウジアラビアについてメール審議し、2012年9月17日に賛成票を投じたことが大久保委員長から報告があった。投票総数、賛成票とも31で加盟が認められ、次回総会まで暫定加盟の扱いになった。

#### (3) IUGG Yearbook の更新について

IUGG 分科会の委員リストを2012年11月に IUGG 事務局に提出し、それが反映された Year-

book が2013年1月に出版された。

#### (4) IUGG 執行部関連の動向について

IUGG 事務局がカールスルーエからポツダムに移動した。執行部会議が開催され、その時の模様は佐竹委員から以下のように報告された。

IUGG は次回から総会時に10名の名誉会員を出すことになり、membership committee が推薦の仕方を考えることになった。また、総会時に、Gold Medal (1名) や Fellowship, Early carrier Scientific Award (40歳以下、10名まで) を出すことになった。これらは2015年から実施される。

次回の IUGG 総会はプラハで2015年6月22日~7月2日開催予定である。6月22日と7月2日はビジネスミーティング。6月23日午後に開会式が行われ、6月27日が前半と後半の半日で休みとなる。2019年の総会は IUGG の100周年記念とし、2020年に IGC と同時開催をする案が検討されている。

#### 4. 学術会議代表派遣について

平成25年度の国際会議代表派遣に佐竹委員から申請があった。分科会内の推薦順序は IASPEI が一位であったので、そのまま佐竹委員を推薦することにした。現在の順序は IASPEI → IAG → IAMAS → IAHS → IAGA → IACS → IAPSO → IAVCEI。

#### 5. 国際対応分科会のアンケートへの対応について

事業仕分けの影響で国際学術団体への分担金の支払いが厳しくなっており、分担金の必要度を示すデータが要求されている。このため、各アソシエーションの学術総会での参加者数、参加国数、日本からの参加者数などの統計データをとるようにとの要望が大久保委員長からあった。

#### 6. IUGG 関連国際研究集会の日本学術会議の後援について

田中オブザーバーから提案のあった第14回 SEDI 国際シンポジウム(神奈川県葉山町で2014年8月3日~8日開催予定)の後援申請を認めた。

日置委員から提案のあった国際レーザ測距ワークショップ(富士吉田市で2013年11月11日~15日)の後援申請を認めた。

#### 7. 小委員会報告

(1) IACS 小委員会(西村): 2012年5月に小委員会を開催し、委員長を西村委員とした。IAMAS と共催で DACA-13 がスイスのダボスで開催されるので学会を通して参加を呼びかけている。

(2) IAG 小委員会(日置): 小委員会を2012年11月に開催した。2013年9月にポツダムで学術総会が



- 開催される。Earthquake Geodesy の国際シンポジウムの日本開催について打診があった。2014 年夏に開催を検討することになった。
- (3) IAMAS 小委員会 (中村) : 春と秋の気象学会の折に定期的に会合。福島第一原発の事故に関し、中島会員、中村委員とで活動を取りまとめて提言執筆に協力した。また、これに関する解説書を 25 年に出すことを目指している。地球環境に関して一般向けの解説書も来年度中に出版する予定。労働基準法の変更によって若手研究者の雇用に問題が生ずるので、次回の会合で勉強会を持つことになった。
- (4) IASPEI 小委員会 (佐竹) : 小委員会を 2 回開催した。アジア地震学会 (ASC) 役員に横井氏 (建築研究所) が選ばれた。ラクラ地震の判決に関する声明が IASPEI と地震学会から出され、後者は IASPEI に取り次いだ。IAPSO, IAHS と合同でスウェーデン・ヨーテボリにおいて 2013 年 7 月 22 日～26 日に学術総会が開催される。
- (5) IAVCEI 小委員会 (中田) : IAVCEI 学術総会 (鹿児島で 2013 年 7 月 20 日～24 日) の準備状況について報告があった。日本学術会議からの後援申請は承認された。
- (6) IAGA 小委員会 (山崎) : 2012 年 5 月に小委員会を開催した。学術総会がメキシコで 2013 年 8 月に開催される。日本からの参加者が減少傾向なので積極的に宣伝することを検討することになった。
- (7) IAPSO 小委員会 (日比谷) : IAHS, IASPEI と共催の学術総会をヨーテボリで開催。2017 年の IAGA, IAMAS, IAPSO 合同学術総会に関して、日本開催の可能性の打診が来た。2013 年 3 月 15 日までに回答を求められているので、今月中に関連小委員会委員で議論することになった。次回の小委員会は 2013 年 3 月 21 日からの日本海洋学会春季大会期間中に開催する予定。小委員会の川辺委員が、2012 年 1 月に急逝したことが報告された。
- (8) IAHS 小委員会 (谷口) : ヨーテボリ会議の準備が進められている。水に関する国際会議 (オープンディスカッション会議) が文科省で開催され、5 省庁から参加があった。若手のキャリアアップをどうするか。GC プログラムで育った若手をどうキャリアアップしてもらうか等を議論した。
8. その他
- (1) 小委員会を開催する場合は、2 週間前までに日本学術会議事務局までに通知を忘れないようにとの確認があった。通知なしで開催された会議は、学術会議として公式には認められないことがあるので、注意が必要である。
- (2) 次回の分科会は、来年度 11 月頃の開催を予定。
- (3) メール審議で確定した議事録案は学会や HP で外部に周知することができるので、積極的に公開していただきたい。